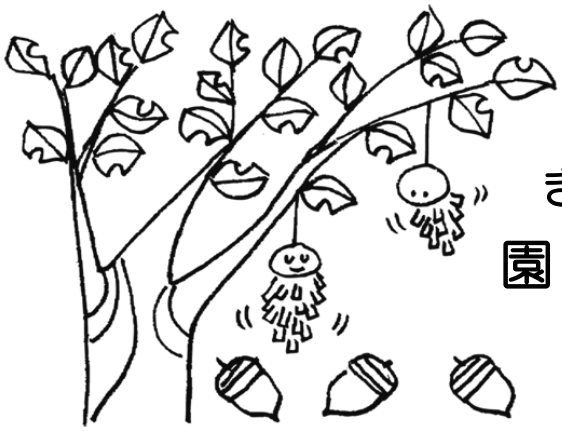

２０２５年度
きたおおじ保育園
園だより　１１月

秋も深まり、朝晩の空気がひんやりしてきましたね。毎日のお散歩がとても気持ちのいい季節になりました。おさんぽ大好き！きたおおじ保育園！毎日子どもたちの元気な声が秋の空に響いています。さぁ楽しいお散歩エピソードかと思いきや、今月のお話。

＜２歳児あるある＞

ニューブロックが大好きな２歳児さんたち。中でも一つしかない「新幹線のパーツ」は毎日争奪戦です。ある日その新幹線を手に入れた仲間がいました。ほかの子が何度も「貸～し～て～」とお願いし続けても、なかなか貸してくれません。持っている仲間は新幹線で遊ぶわけでもなく、ずっと手に持ったまま。きっと“手に入れた！”ことが、何よりも嬉しかったのでしょう。その気持ち、ちょっと分かります。「貸～し～て～」とお願いし続ける子もまた健気で、最後まで諦めませんでした。けれど結局、その日は貸してもらえず涙目でお片付けの時間。「明日は新幹線で遊ぼうね」保育士はそう声をかけて、その日のニューブロックは終わりました。

＜「貸～し～て～」と「いいよ～」＞

そして次の日。保育士は心に決めました。「今日は絶対あの子に新幹線で遊ばせてあげるぞ！」と。こっそり新幹線を確保し、無事にその子の手に渡ったときの嬉しそうな顔といったら…心の中で思わず「やったね！」とガッツポーズしてしまいました。

ところがそこへ、昨日の“新幹線ゲットちゃん”が登場。「貸～し～て～！」と言いにきます。その時の保育士の胸の内はこうです。「昨日は貸してあげなかったんだから、今日は貸してもらえない気持ちを感じてみたら？」。ところが今日のゲットくんはニッコリ笑って「いいよ～」と大事な新幹線を差し出すじゃありませんか。しばらくすると今度は立場が逆に。「貸～し～て～」「いいよ～」。ふたりの間で繰り返される、あたたかなやり取りが続きました。

＜新幹線パーツが教えてくれたこと＞

その光景を見ながら、保育士はハッとしました。その子どもは、昨日のできごとを「仕返し」ではなく「経験」として受け止めていたのです。「貸してもらえない気持ちを感じてみたら？」。それは仕返しではなく、本当は相手の気持ちに気づけるようになって欲しいから。誰かに優しくなれる種になってほしいから。“いいよ”と言える心につながってほしいから。それなのに、昨日の仕返しのように思ってしまった保育士は、とても自分が恥ずかしくなりました…。

＜子どもたちから学ぶ＞

子どもたちは“昨日の自分”を軽やかに超えていきます。大人のように損得や意地ではなく、ただまっすぐに相手の気持ちを受けとめるのです。「貸して～」「いいよ～」のやり取りの中に、人を想う心の優しさがあふれていました。

１１月に入ります。冷たい風の中にあたたかな陽だまりを見つけるように、今月も、子どもたちからたくさん学び、心がポカポカする毎日を過ごしていきたいと思います。

主任保育士　糸井恵太

きたおおじアルバム